



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.15 2016.9

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

この号の内容

【観光関連】

八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

- 1 はじめに
- 2-3 駅前設備について
- 4-5 観光関連 -エリア別-
- 6 答弁
- 7 答弁と要望
- 8-9 再質問と答弁
- 10 再質問と答弁・要望

しばらくの時間おつき合い願います。

今回も本市の観光振興について、今の段階での方針をお伺いし、あわせて急を要することもありますので、八幡市駅前整備について何点か質問をさせていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。願っております。

観光復興と 八幡市駅前整備について

最初に、今回もと申しましたのも、私が八幡市議会に席をいただいてから今日まで一貫して観光復興の大切さを訴えてまいりました。

観光といえば、これまでですと全国的に見ても有名な観光地のある地域が取り組む課題であって、今のようどこへいっても観光、観光とは言っていないように思います。

京都府の場合ですと、神社仏閣の多い京都市と宇治市に天橋立ぐらいでした。本市におきましても、これまで男山地域をはじめとする土地基盤整備に多くの予算が投じられ、観光施策にまで予算が余り投じられなかったのも事実です。

しかし、今や観光に対する考え方が変わってきています。

各自治体とも観光が産業になり、まちの活性化につながることを感じとっているからだと思います。前回の質問でも申しましたように、官公庁が観光立国という言葉を使っています。日本は将来に向けて発展、拡大を図れるプロジェクトとして位置づけていることです。官公庁の集計によれば、今年7月の訪日客はこれまで最多の229万人、11月にも年間2,000万人を超えると見えています。つまり、観光は日本にとって将来の柱になるということです。

私は、見たくなるまち、来たくなるまち、住みたくなるまちをスローガンに掲げてまいりました。自画自賛になりますが、よきフレーズ、よきコピーだと思っています。見たくなるまち、来たくなるまちにするために、各府県では、市やまちが一生懸命取り組むようになってきています。

京都府南部にある自治体の中で、八幡市は観光資源に恵まれています。

豊富な観光資源をまとめてパワーアップさせて、観光客を呼び込もうと提案してまいりました。観光資源がないと思えば、知恵を働かせ、つくりだせばよいと言っておりましたが、近隣の市が果敢に取り組みを始めています。

向日市は、8世紀の長岡京と政治文化の中心であったことから、本年度から8世紀の長岡京時代、桓武天皇が政務を行った重要な建物、大極殿朝堂院を長岡京跡に一部復元する事業を始め、歴史観光の目玉にしたいと考えておられます。

本市の対岸にある大山崎町は、天王山を大々的に全国に売り出すことを考えているようです。天王山を観光施設の中心に置き、古戦場を縁にする岐阜県関ヶ原町と組んで観光を盛り上げようとしています。共同記者会見では、両町の町長が甲冑姿で登場したり、6月に開催された大山崎天下とり決戦祭りには、光秀ゆかりの地、亀岡から火縄銃の演舞隊が招かれ、歴史好きの吉本芸人も話芸を披露され、2日間で6,000人の観光客が訪れたそうです。

このように、各自治体が観光を地域の活性化の柱に据えていることを見逃してはなりません。

京都府の北部は典型的な過疎のまちでしたが、海の京都、丹波は森の京都と独自性をクローズアップさせて話題となるイベントなどがふえてきています。

海の関連で言えば、四国の香川県は日本一小さな県です。うどん県を強調しています。

小豆島は最近のオリーブとの関連で知名度が高まっていますが、一時はごみの不法投棄でニュースになっていました。

しかし、小豆島の近辺にある島々を3年ごとに結んで芸術祭を展開し、島の景色と企画内容のすばらしさが受けて、今ではそれをみに訪れる人が年々ふえ、ことしは100万人を超えたそうです。

大手旅行会社がツアーを組んで売り出しています。

観光とは、申すまでもなく光を見ることです。光っているところがなければ、つくればいいのです。

小豆島の離島を結ぶ芸術祭こそ、人の住まない島をアートの島にしました。芸術で光の島に変えた成功例として挙げられています。

幸い本市には、光り輝くスポットがたくさんあります。一つ一つでも光っていますが、もっと光らせて一つ一つを束にしようということを私はずっと提案してまいりました。

観光復興と 八幡市駅前整備について

第4次八幡市総合計画後期基本計画に掲げる成果指標、進捗状況調書の中で、八幡市を訪れた観光客数は平成23年度が172万8,000人、5年を経て平成27年度は181万9,000人とあります。10万人の増加です。年間にして2万人をよしと見るのか、知恵を働かせて2万人を5万人に、さらに進めて5万人を10万人にするために何をしなければいけないのか。発想の転換が必要とされているのではないのでしょうか。

観光は八幡市の経済を活性化させる活力を秘めたプロジェクトです。よそもやっているから本市もやりましょう、多少なりとも増えたらよい、ではなく、何が何でもやり抜く、近隣の市には引けをとりませんの覚悟をもって取り組むぐらいの位置づけをしていただきたいのです。

石清水八幡宮のふもと、八幡市駅の近くには、緑豊かな自然があります。特に関東地方から来られた観光客の多くは、駅の改札口を出てすぐ山があり、ケーブルカーの乗り場があります。

この光景に感動されます。

京都府でケーブルカーのあるところでは、鞍馬にしても比叡山にしても、電車をおりて山へ向かって歩いて行って乗るのが常識です。

ひょっとしたら八幡市駅に乗り場のあるの知らない人が多いかもしれません。せめて表示だけでもすべきだと常々言ってまいりました。京阪電鉄にしても、社内アナウンスなどを活用して知らせることが八幡市駅の活性化につながると思います。

八幡市は石清水八幡宮の門前町です。門前町は本来、もっとダイナミックにぎわっていないかではありません。門前町にふさわしいお土産や特産品もあってしかるべきです。

石清水八幡宮が国宝に指定された今こそチャンスです。八幡市の玄関口である駅前をどのように改装し整備していくのか、ジオラマで見える絵にするぐらいにして、見える取り組みを進めていっていただきたいと考えています。

質問

①観光復興と八幡市駅前整備について

⇒ 今回同じことをお聞きして嫌がられそうですが、本市八幡市が観光とどう向き合っていくのか、市長の思いをお聞かせください。

この後は、観光関連で地域を絞って何点かお伺いします。

観光関連-エリア別-

質問

②背割堤と背割堤関連について

⇒ 石清水八幡宮とともに数ある観光スポットの中で背割堤の桜は見事です。

八幡市の宝物です。桜は、つい満開のときだけクローズアップされますが、満開のときだけ美しいのではなく、新緑の桜もすばらしい、

夏の桜はダイナミックです。

秋の桜はドラマチックです。

冬の桜にも感動できる感性を養う場として、背割堤を活用すれば、春だけでなく、1年を通しての観光スポットとして活用が図れると思います。背割堤地区サービスセンターについては、淀川河川事務所が来年の春オープンを目指してネーミング募集や広報活動を展開しておられますが、市としてはどのように連携を図っていられるのか、タイアップ企画を考えておられましたらお示しいただきたいと思っています。

③八幡市駅南側エリアについて

⇒ 南口周辺の駅前整備やターミナル機能の整備、踏み切りのバリアフリー化、狭い道路の解消、放生川の再生は大変重要な課題ではないでしょうか。

八幡市駅前から放生川一帯がきれいになれば、八幡市のイメージは随分よくなると思います。

市民の憩いの場、観光客が何度も訪れたい場所になると考えます。

八幡市駅前周辺の活性化の取り組みについて、大規模な事業により一挙に駅前周辺を活性化させることは、困難が多くあると思います。

できることから地道に一步一步進めていただきたいと思っています。

まずは八幡市駅南側エリアが本市観光の起点になり、終点にふさわしい場となるよう、また、にぎわいのあるエリアとなるようなまちづくりを進めていくことが大事です。八幡市駅南側エリアについては、どのようにお考えでしょうか。

④駅前広場ターミナルの課題について

⇒ 現在、駅前広場にはタクシーや送迎の自家用車などが停滞しており、観光場所の通行すら支障があるように思います。

まして、観光バスから観光客をおろすための駐車場所もなかなかありません。観光客の乗り降りのための観光バス停車スペースの確保が必要だと思っています。

今は、観光を取り巻く状況が変わっています。

35年前に整備した八幡市駅前のロータリーには、観光バスが乗り入れるスペースが狭く、老朽化が進み美観も損ね、観光客を迎える玄関口の役割は果たしていません。

駅前広場のターミナルについてはどのようにお考えでしょうか。

また、観光バスの受け入れ体制はどのように考えられているのでしょうか。

観光関連-エリア別-

⑤放生川関連について

⇒ 放生川の再生について、放生川は、かつてフナなど多くの生物が生息し、子どもたちの遊び場でありましたが、川幅が狭く、大雨が降ると氾濫していました。

河川整備により、私たちの生活は安全になりましたが、水量制限により水の流れがなくなり、また、住宅開発などで水質悪化してごみが散乱し、水草が多くなり、水質環境が悪化、コンクリート水路の構造などにより生き物には住みにくい川になってしまいました。

また、悪臭も発生していました。8月28日には、放生川沿いのさざなみ公園で、地域の活性化を目指すイベント太鼓橋さざなみフェストが開催されました。

大勢の方がさざなみ公園に来られました。

地元の団体などで行う実行委員会が1997年からイベントや美化活動、勉強会を通して、放生川をきれいにする取り組みを行っています。少しずつではありますが、川がきれいになり、水辺の生き物がすむ川になってきましたが、土砂などが堆積しているところもあり、景観を損ねています。また、ふだん流量は少なく、勾配が大変緩いため、流れが見えにくい川であります。このため、大谷川と防賀川の合流場所からポンプにより送水を行っていますが、水量確保という点では十分ではありません。市民の皆さんが川に触れて楽しんでいただく憩いの場としては、まだまだ言いがたい状況です。さざなみ公園周辺の景観がよくなり、市民の憩いの場となるためには、ボランティアで美化活動するには限界があります。放生川の景観を大きく改善するためには、行政のハード面の力と知恵をお借りしたいと考えます。みお筋の整備や流量をふやす手法などについて、京都府と協議、調整は進んでいるのでしょうか。また、市民の憩いの場として活用することについてはどのようにお考えでしょうか。

⑥八幡市駅東側エリアについて

⇒ 八幡市駅北側エリアについては、背割堤地区において国土交通省の平成28年度末、展望台を併設したサービスセンターの開設に合わせて、御幸橋から八幡市駅を結ぶ道路の修景化を進めておられます。

しかし、八幡市駅東側の踏み切りは歩道がなく、朝夕などは自転車や歩行者の車両との接触事故も危惧されている状況にあります。

踏み切りの拡幅については相当な費用が必要であるとのことですが、通行者の安全確保、八幡市駅南北の円滑な往来の確保に向けて考えていただきたいと思えます。

御幸橋の歩道から踏み切りの手前までは同じ3.5メートルで歩道の整備が行われています。

踏み切りの拡幅についても3.5メートルの歩道幅員が必要だと思えます。

踏み切りの歩道幅員についてはどのようにお考えでしょうか。

また、踏切を拡幅してバス等の大型車両等のスムーズな移動についてのお考えはありませんか。また、そうした工事を実施する国等の補助金制度はないのでしょうか。

最後に、京阪電鉄の考えは、また、京阪電鉄との調整、協議などは行われているのでしょうか、お伺いします。

観光関連-エリア別-

答弁

①観光復興と八幡市駅前整備について

⇒ 私の観光に対する思いでございますが、本市の観光を取り巻く環境につきましては日本茶 800 年の歴史散歩の一つとして、流れ橋と浜茶が日本遺産に認定され、石清水八幡宮が国宝となり、さらには今年度末には三川合流域の展望塔を併設するサービスセンターが建設される等、まさに追い風が吹いていると考えております。この状況を最大のチャンスと捉えまして、観光振興、PRを積極的に推し進め、観光入込客数及び観光消費額の増加を図ってまいりたいと考えております。こうした観光への思いを実現するために、観光協会の体制と機能を強化いたしました。また、具体的な施策を検討するため、お茶の京都交流拠点づくり推進協議会を設置いたしまして、市民共通の目標となるブランドコンセプトをつくり上げるとともに、民間事業者等の協力も視野に入れながら、持続可能なビジネスモデルを含めました八幡市駅整備等観光まちづくり構想を今年度中に策定することとしているところでございます。

②背割堤と背割堤関連について

⇒ 三川合流域の交流拠点施設につきましては、京都府と周辺市町と協働し、地元の観光資源や食材を活用した新たな賑わいづくりの展開を目標とされています。三川拠点施設を魅力的な場とするため、八幡市、久御山町、大山崎町、島本町の観光周遊促進の企画検討や、地元物産を活用した食をテーマとした地域振興プログラムの開発、さらに、平成 29 年度お茶の京都ターゲットイヤーを推進する観光施策と連動した取り組みなど、引き続き国・府や周辺自治体と協働してまいりたいと考えております。

③八幡市駅南側エリア・④駅前広場ターミナルの課題について

⇒ 現在、観光バスは安居橋前の石清水八幡宮駐車場を利用されております。大型バスの利用可能台数は8台程度で、観光シーズンには不足することが想定されておりますので、今後検討してまいります。現在の駅前広場ターミナルの形状変更など、抜本的整備は多額の費用や長期の整備期間が必要であることから、基本的には現在のターミナルのリニューアル等を行うことで対応してまいりたいと考えております。

⑤放生川関連について

⇒ みお筋の整備につきましては、平成 26 年5月に、京都府で安居橋から八幡市まで整備を行っていただいております。流量をふやす手法につきましては、維持ポンプの増設か、旧大谷川からの水路の拡幅との有効性を府と協働し、平成 27 年1月に旧大谷川からの水路拡幅がより効果が大きいと判断しましたが、実施には至っておりません。市民の憩いの場としての活用につきまして、放生川周辺はさざなみ公園や遊歩道など一定の整備は整っているものと考えておりますが、河川内につきましては、八幡排水機場のポンプ点検などで水位が一定しないことから、憩いの場として活用することは難しいと考えております。

観光関連 答弁と要望

観光関連-エリア別-

⑥八幡市駅東側エリアについて

⇒ 八幡市駅東側の放生川踏み切りは、歩行者と車両の分離がされておらず、踏み切り南北の歩道付近に合わせた幅員の保存の必要性は認識しているものでございます。

車道部幅員につきましては、放生川踏み切り北側に幹線幅員で整備したたな橋があることや、踏み切り東側に大谷川があることなどから、道路幅員また踏み切りの車道幅員の拡幅は困難であると判断しているところでございます。

踏み切り整備に関する助成は、事故対策や踏切などの拡幅を対象として、社会資本整備総合交付金というものがございます。

これまで京阪電鉄株式会社とは、歩道確保に向けた拡幅に関しての技術的検討、設計業務や工事費について協議や調整を行ってまいりました。しかし、調査や設計業務、工事費の合計費用がおおむね4億円と伺っており、本市の財政状況等を鑑み、即座の対応はできないものと判断しているところでございます。

要望

ただいまは、市長を初め理事者の皆様から丁寧なご答弁をいただき、ありがとうございます。

ご答弁を拝聴しながら、理事者の皆さんが本市の発展のために真摯な取り組みをしておられることは理解いたしますが、ここはひとつ、思い切りのよさと申しますが、今だからこそ観光対策に一步も二歩も踏み込んでいただきたいのです。と申しますのも、観光を大切にすれば今、今を以ては時を失すと申してもよいぐらい風が吹いているからです。

石清水八幡宮が国宝に指定されたこと、流れ橋も開通しました。

流れ橋周辺の茶畑の景観が日本遺産になりました。

背割堤地区においては、展望台を併設したサービスセンターが開設されます。

京都縦貫道の開通、新名神高速道路城陽・八幡間が開通します。平成29年度はお茶の京都ターゲットイヤーです。このようにずらっと並べただけでも、観光にとっての好条件、好材料がそろっています。八幡市にとってこの恵まれた背景を具体的な観光政策としてどう生かしていくのか、アイデアを競い行動に移していただきたいのです。

また、駅前広場ターミナルについては、7月に観光バスと乗用車の接触事故がターミナルで起こっています。リニューアルまでの間、可能な限りの安全対策をとってほしいと考えます。

先のことになりますが、桜まつりのときには3万人の観光客が来られています。八幡市駅から踏み切りを渡って背割堤へ行かれる方も大勢おられます。また、サービスセンターができると、1年を通して人の往来がふえます。踏み切りの歩道を拡幅しないと危険だと思います。車が渡る時には車道部分のはみ出しています。電車も含めて、車や人の接触事故の危険性があります。速やかに取り組んでいただきたいと思っております。

観光関連 再質問と答弁

⑦観光客増加の資産について

⇒ 先ほどの質問の中で、本市を訪れた観光客が5年で10万人の増加と申しました。この単年度あるいは5年先の観光客の増加をどのように期待しておられるのか、試算があればお示しください。あわせて、観光消費額の試算もあれば教えてください。

【答弁】

平成27年182万人、約5億400万円、平成28年、石清水八幡宮の国宝化、また流れ橋の開通等々によりまして210万人、6億8,000万円を見込んでおります。また、平成29年には背割堤のサービスセンターが開設されます。それとあわせまして、八幡市駅前等観光まちづくり構想を実施していくことによりまして、平成32年には230万人、7億3,000万円を試算しております。

⑧八幡市駅前南側の整備について

⇒八幡市駅前南側エリアの整備については、同構想について進めていただきたいと思っております。八幡市駅前整備等まちづくり構想は、先ほどの答弁では今年度中に策定されるということですが、来年度から観光での八幡市駅前南側エリアの整備は動き出すと理解してよろしいでしょうか。

【答弁】

平成29年度、動き出すのかということですが、基本的にはそのように努力したいと思っておりますけれども、普通、構想、計画、実行になりますので、来年度については、構想に基づく計画づくりの年になるのではと思っております。

⑨駅前構想について

⇒次に、八幡市の玄関口である駅前をどのように改装し整備していくのか。最初にも申しましたように、この際、ジオラマをつくってはどうか。いろいろな課題や駅前の構想も見えてくると思います。

【答弁】

駅前のことに関するところでございますので、個別にどれをどうするという事は、現時点でも6月議会でも申し上げましたように、お答えできることではなく、まず構想をつくって、先ほどお答え申し上げましたように、計画して実行していくという形の中で、協議会の中で検討していただけるものではないかと思っております。

⑩お茶の京都ターゲットイヤーについて

⇒お茶の京都ターゲットイヤーは具体的に何をされるのか、お伺いします。

【答弁】

京都府では平成29年度がお茶の京都のターゲットイヤーとされております。当然私もこれに合わせて取り組むこととしておりまして、今年度については、ご可決いただきました予算で、11月27日に大茶会等をイベントとして開催したいと考えているところでございまして、ただいまその準備をしているところでございます。京都府におかれましては、平成29年度がターゲットイヤーだということで、そのキックオフイベントとして桜の関係もございまして、三川合流拠点施設が3月にオープンいたします。その翌月に背割堤一帯において、当然拠点施設も含めまして、お花見を楽しみながらお茶のよさを感じていただけるような茶会イベントを計画されていると伺っております。本市といたしましても、それ以外に当然本市独自のイベントも今後計画していくことになると思っておりますけれども、お茶の京都を進める構成団体として、京都府や関係団体とともにできるよう進めてまいりたいと考えているところでございます。

観光関連 再質問と答弁 2

⑪背割堤サービスセンターの活用について

⇒背割堤のサービスセンターについては、先ほどは、市としてどのような連携を図っていただけるのかお伺いしました。サービスセンターは駅前の活性化にもつながっていきますが、それ以上に八幡市の観光を推進する中で大切な場所となってくると考えます。何と申しましても淀川三川合流地域であり、豊かな自然と雄大な景観に恵まれています。しかも、本市を初め向日市、大山崎町、大阪、京都の複数の自治体が絡んでまいります。つまり、他の地域間との連携のとりやすい立地条件にあるということです。さらに、名神高速道路京都第二外環状道路など、広域基幹交通とつながり合っていることです。国土交通省が力を入れていきます。八幡さん、背割堤も見渡せ、景観は申し分ないと思います。八幡市にとって、さらには京都府にとっての新しい観光スポットになってまいります。本市とのかかわり、駅前整備とのかかわりも含めて、サービスセンターができることでどのような効果があると考えておられるのか、活用の可能性も含めてお聞かせください。

【答弁】

サービスセンターの活用の方法等につきまして、国・府、近隣市町と連携して、集客施設としての活用を検討してまいりたいということございます。

⑫最新情報に基づくマップ計画について

⇒今後、観光対策を重視することによって、それぞれの施設の来訪者がふえます。京都縦貫道の開通や新名神高速道路城陽・八幡間の開通、来るまでの来訪者がふえると考えられます。
車や自転車、歩いて持ち帰るマップが必要だと思います。
最新情報に基づきマップの計画がありましたお示しください。

【答弁】

新たな観光マップの計画でございますけれども、最新情報に基づくマップを観光協会で作成を検討されていると聞いております。

⑬石清水八幡宮関連の今後について

⇒石清水八幡宮が国宝に指定され、国宝パンフレットの作成や看板、垂れ幕の設置、記念式典御神楽の奉納もありました。
石清水八幡宮関連で今後の予定なり計画がありましたら、公表いただきたいと思います。

【答弁】

石清水八幡宮が国宝になったことについて、新たな計画等とはということでございますけれども、石清水八幡宮の観光客を増加という観点から、新たな旅行商品の造成について、旅行会社に働きかけを行ってまいります。

観光関連 再質問と答弁・要望

⑭納涼七夕まつり・桜まつりについて

⇒先のことになりますが、納涼七夕まつり、桜まつりは今までどおりなのか、多少の変化があるのか、わかる範囲でお答えください。

ご承知のとおり、桜まつりのときには3万人の観光客が来られています。

八幡市駅から踏み切りを渡って背割堤へ行かれる方も大勢おられます。

また、サービスセンターができると、1年を通して人の往来がふえます。

踏み切りの歩道を拡幅しないと危険だと思います。車が渡るときには車道部分がはみ出ています。電車も含めて、車や人の接触事故の危険性があります。

速やかに取り組んでいただきたいと思います。

【答弁】

七夕まつりにつきましては、一応今年度で社会実験としての実施は終わることになります。本市としましては、今後の観光事業の促進、またサービスセンター等の利活用の促進のためにも、従来の七夕まつり、またそれにかかわる事業を続けていく必要があると考えております。今後につきましては、国土交通省が計画されております淀川にぎわいプロジェクトに淀川三川満喫プランがございまして、その中で取り組んでいくものと考えております。

また、桜まつりにつきましては、継続を考えているところでございます。

要望

放生川については、流れのこと、美化も含めて、真剣に、しかも急を要する案件として取り組んでいただきたいと思います。水辺は、都市周辺において人々の生活に潤いや快適性をもたらす空間として見直され始めています。放生川は人が集まる駅前を流れています。

人々が集まる空間として恵まれた立地条件です。活用すべきだと考えます。京阪沿線沿いでは、寝屋川市駅すぐ近くにある寝屋川でも取り組みが行われています。

寝屋川はかつては水質全国ワーストワン、おまけに急激な開発で水害にも悩まされ、治水を最優先とした整備が行われてきました。しかし、いつしか市民からは遠い存在になってしまいました。平成13年、寝屋川市では、市制50周年を期に、この忘れられた川を市のシンボルにふさわしく、生き物が生まれ育つ川にしようと、市民の生活空間に取り組もうと、川の再生を図る取り組みが行われています。

また、放生川は石清水八幡宮のふもとを流れる大切な川です。

京都の葵祭りとともに石清水祭は勅祭です。石清水祭では放生川で大切な神事である放生会が行われています。美しい清流でなくてはなりません。まちにはご承知のとおり、さざなみフェスト実行委員会がさざなみフェストや川の美化活動に取り組んでいます。

今回が19回目、夏を惜しむ市民のイベントとして定着しています。

放生川で子どもたちが遊び、大人たちが散策を楽しむ憩の水辺にしなくてはなりません。

先ほどのご答弁では、憩の場所として活用することは難しいと考えておりますと言われましたが、水位の一定を図るためにどうすればよいかを考え、憩の場となるよう、これこそ知恵を働かせていただきたいと思います。

文化庁が京都府に来てからではおそいです。

八幡市駅前から放生川一帯がきれいになれば、八幡市のイメージが変わります。

家と同じです。玄関がきれいではなりません。

京阪電車の特急がとまるようになればいいのではなく、特急がとまる駅にしてみせるぐらいの気概を持って取り組んでいただきたいと思います。

放生川の改修に関しては、京都府との協議事項も多いと思いますが、本市にとっての重要な課題として位置づけをしていただきたいと思います。